

## (報 告) 令和4年度事業報告について

令和4年度事業報告

自：令和4年4月1日

至：令和5年3月31日

令和4年度期首には「新型コロナウイルス」感染拡大の状況が鎮静化傾向でありましたが、7月上旬から「オミクロン株」による感染第7波の影響を被る結果となりました。職員や協力スタッフの家庭内感染事例も数件報告され、突発的な欠員を生ずることとなりましたが、各部が協力してこれを補完することにより、この難局を乗り越えることができました。

9月から10月中旬までは一旦収束の兆しが見えたものの、11月には感染第8波をむかえる結果となりました。この時期は「季節性インフルエンザ」の流行期と重なり、同時多発も懸念される状況でありました。感染症の専門家におかれましても「新型コロナ」と「季節性インフルエンザ」の症状は弁別が困難とのことでありました。当協会は確立された「季節性インフルエンザ」感染拡大の抑止力となるべく、例年どおり「季節性インフルエンザワクチン」の接種を推進するとともに、「新型コロナワクチン」の職域接種要請にもお応えいたしました。具体的な人(回)数の推移は以降に示すとおりであります。

年間を通じての業況は、会員・顧客皆様のご理解のもと、ほぼコロナ禍前(令和元年度)まで回復することができました。

しかしながら、健診事業の運営面では突発的な健診日の延期要請等もあり、当年度も「新型コロナ」に翻弄される結果となりました。受診者の皆様・協会職員の個人が感染防止に努めてもなお「誰が感染しても不思議ではない」社会情勢でありました。

健診会場の運営面では感染防止対策の緊張感を維持することが重要であり、未だ日常を取り戻したとは申せませんが、グループとして「予防医学分野」での社会的貢献度の向上を目指して、(一財)健康医学協会との連携の強化を推進しております。毎週定例の合同渉外会議を開催し、巡回健診部門では当協会が機動力を発揮するとともに、施設型健診のニーズには設備や地理的利便性で他機関をリードする(一財)健康医学協会がこれにお応えし、働く人たちの健康管理に寄与する体制が整備できました。当協会は巡回健診・健診事務代行を担当し、施設型健診の実践は(一財)健康医学協会がこれを担当することにより健康診断に関するあらゆるニーズにお応えする方針であります。

期末(3/13)にはマスクの着用義務が緩和されたものの、感染症の専門家は「第9波」の襲来も懸念されるとのことであります。当協会は引き続きマスクの着用・3密回避等の基本的な感染防止対策に傾注しつつ、日常の業務を粛々と運営いたします。

## I. 事業内容

### 【健康診断事業】

#### (1) 健康診断の実績

令和4年度の健康診断受診者総数は292,390人となり、3年度の受診者総数を47,610人 上回りました。

コロナ禍前（令和元年度）からの受診者数の実績を時系列に表記すると下表のとおりであります。

＜年度別受診者数実績表＞

(単位：人)

受診者区分	受診者数			
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1) 職域関係	238,525	199,595	217,457	256,965
2) 地域住民関係	14,780	0	0	0
3) 学童・生徒・学生	38,647	28,288	27,323	35,425
1)～3) 総合計	291,952	227,883	244,780	292,390

巡回健診の業況は、コロナ禍前まで回復いたしました。

健診区分別実績の詳細は別表（10ページ）のとおりでありました。

#### (2) 「季節性インフルエンザワクチン」と「新型コロナワクチンの職域接種」の実績

＜季節性インフルエンザワクチンの接種実績推移＞

(単位：人)

年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
年间接種実績	26,510	23,764	16,634	15,132

新型コロナ対策としての衛生意識が高揚した結果、「季節性インフルエンザワクチン接種」の需要が縮小したものと推察されます。

前年度（令和3年度）の特殊事情として「新型コロナワクチン」の職域接種がありました。当年度は自治体による接種が順調に進展した結果、下表の実績となりました。

＜新型コロナワクチンの職域接種実績 前年対比＞

(単位：回)

年度	令和3年度	令和4年度	R4年度－3年度
年间接種実績	49,694	11,446	△ 38,248

(3) 「ストレスチェック」

制度が本格化して7年を経過した「ストレスチェック」の実績は、以下のとおりでありました。

企業の産業保健スタッフの方々は、直面しているコロナ対策を最優先事項と位置付け、働く人々の健康管理に取り組まれておられました。

コロナ禍が収束した時点で、あらためて「ストレスチェック制度」の普及・啓発を推進いたします。

＜ストレスチェック制度導入後の実績 推移表＞

年度 区分	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
受託事業場数	102	130	81	75	69	70	72
受検者総数	15,699	19,806	11,602	10,452	9,562	9,253	10,122

(4) 特定保健指導

特定保健指導の実績は、下表のとおりでありました。

＜特定保健指導実績 推移表＞

(単位：件)

年度 区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
動機付け支援	264	605	618	816	2,296	2,263
積極的支援	392	746	998	1,544	2,989	2,525

令和3年度を契機に、栃木県内の大手自動車メーカーの工場内診療所における健診運営に併行し、当協会主導で「特定保健指導」を実践することとなりました。この結果、同企業からの信頼を得るとともに、当協会に課せられた「公益目的支出計画」を適正に実行することができました。

(5) 内部被ばく線量測定 (Whole body counter) 搭載車の稼働状況

環境省が取り組んでいる「福島県内における住民の個人被ばく線量把握事業」について(公財)原子力安全研究協会のご指導のもと、当協会が保有するWBC搭載車を現地に派遣し、自宅に帰還または帰還予定の皆様への不安軽減に貢献いたすべく継続して取り組みました。

稼働日数の推移は以下の通りでありました。

＜WBC搭載車 稼働日数の推移表＞

(単位：日)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
稼働日数	9	88	87	86	49	63	88

上記のとおり、WBC車の稼働実績は「コロナ禍」前まで回復いたしました。当協会が目指しているのは、3.11(東日本大震災)以前を取り戻すことでもあります。被災者の皆様が安心して帰郷できるよう「内部被ばく線量」を追跡・検査するのは、当協会として当然の社会的責務であります。

次年度（R5年度）もこの測定を担当することが決定いたしました。

（6）板橋区住民を対象とする「新型コロナ」健康相談業務に従事しました。

前年度（R3年度）に引き続き頭書の業務を運営いたしました。

月別の健康相談対応実績は下表のとおりでありました。

＜月別コロナ感染症健康相談対応実績表＞

上段：令和4年度上期

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期合計
着信数	2,237	1,204	890	18,171	11,822	1,984	36,308
受電対応数 (相談に応じた件数)	1,980	1,172	882	4,808	5,558	1,781	16,181
	88%	97%	99%	26%	47%	89%	44%

下段：令和4年度下期

	10月	11月	12月	R5, 1月	2月	3月	下期合計
着信数	785	1,558	2,139	1,305	273	209	6,269
受電対応数 (相談に応じた件数)	774	1,464	2,024	1,174	273	209	5,918
	98%	93%	94%	89%	100%	100%	94%

令和4年度年間実績：着信件数42,577、受電対応数22,099（51%）

上期にはワクチン接種の問い合わせも健康相談窓口集中したことにより44%の対応率となりました。下期は年末年始休暇明けに相談が集中しましたが、上期程の混乱はありませんでした。

都内の感染者数と着信数を時系列にプロットした結果は、当然のことながら同じ曲線を描きました。この状況を毎日「板橋保健所」に報告し、都度ご指導を賜りながら業務を遂行いたしました。

### 【事務センター】

健康保険組合の健診関連事務を代行する「事務センター」のコロナ禍以降の業況は下表のとおりでありました。

＜主たる業務の業務別処理実績推移表＞

（単位：件）

業務 \ 年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
① 予約管理	182,569	198,915	156,440	169,692
② 請求管理	236,632	211,774	232,715	220,128
③ 結果処理	243,624	218,053	233,247	225,039

当センター所管の事務代行業務は、巡回健診事業にみられたコロナ禍による大幅な変動はないものの、業況回復が遅れております。

予約管理業務の処理件数が減少した事由は、健保組合が開発したWebシステムでの申し込みが進展したことによるものであります。

これは健康保険組合・当センター両者の省力化を推進することとなります。

主たる業務以外の健診に付随する事務代行の受託状況は以下のとおり推移いたしました。

＜その他の保健事業関連事務代行業務の推移表＞

(単位：件)

業務	年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
立替・請求処理		6,901	7,948	7,459	7,502
インフルエンザワクチン接種補助審査		120,690	25,931	12,649	9,742
保健指導結果・請求処理		14,951	15,777	29,186	29,902
歯科検診結果・請求処理		19,604	2,160	839	1,586

事務センター発足当初からの目標でありました「健診結果標準フォーマット」導入状況は86%と頭打ちの状況となりました。委託先医療施設のシステム環境の未整備が大きな要因となっているものと推察されますが、今後も丁寧に指導してまいります。

## II 技術研修会等への参加状況

職員の技術力の向上を目的として、(公社)全国労働衛生団体連合会等が主催する各種講習会・研修会に参加いたしました。「コロナ禍」により、対面・ON LINEの併用で開催されました。

### ＜外部研修会＞

- 8月26日 「選別聴力検査研修会」 主催：全衛連 (対面開催)
- 12月1日 「特殊健康診断 ON LINE研修会」 主催：全衛連
- 2月16日 「治療と仕事の両立について」  
「令和3年度職域における有所見率の調査報告」  
「これからの子宮頸がん検診について」  
主催：東京都産業保健健康診断機関連絡協議会 (対面開催)

### ＜社内研修会＞

- 4月4日 「個人情報保護新人研修会」
- 7月15日 「オミクロン株による感染拡大の防止対策について」  
(健診会場運営上の留意事項の再確認)
- 9月26日 「オミクロン株対応ワクチンの職域追加接種の概要について」
- 10月7・8日 「新入職員研修会」
- 12月3日 「第20回年末研修会」
- 1月31日 「放射線業務基礎講座」
- 2月22日 「臨床検査技師に対する検査機器取扱い操作について」
- 3月3・4日 「管理職層研修会」
- 3月24日 「新規導入検診車の特性、テスト走行の体験」

### Ⅲ 講演会の開催及びその他の発表・指導、協力等

コロナ禍により遺憾ながら当期も「定時社員総会」終了後の労働衛生関連の講演会を開催することができませんでした。厳しい社会情勢が続いておりますが、当協会としてできる限りの協力をいたしました。

8月 都産健協が主導する「職域健康診断の有所見者状況調査」と「風しん予防接種」の実績調査に協力いたしました。

9月 全衛連が主導する「心とからだの健康推進運動」に協力いたしました。

10月12日「産業保健フォーラム 2022」の運営会場で「体力測定業務」を担当いたしました。

当期は参加人数を600人に制限したものの対面での開催が実現できました。

主催：東京労働局、(公社)東京労働基準協会連合会、東京産業保健総合支援センター

場所：ティアラ こうとう（江東区住吉2-28-36）

11月15日「港地区健康と安全推進大会」の運営会場で「骨密度測定業務」を担当いたしました。

主催：三田労働基準監督署、(一財)三田労働基準協会

場所：ハローワーク品川4・5F（港区芝5-35-3）

8月・2月 当協会の公益的広報活動として、例年どおり「事業年報」と機関誌「あおぞら」15・16号を編纂し「新型コロナ対策」の動向や当協会の感染防止方針を掲載し会員・顧客の皆様にお届けいたしました。

### Ⅳ 外部精度管理の参加状況等

全衛連が主催する総合精度管理事業に以下のとおり参加いたしました。

○「令和4年度 胸部エックス線検査精度管理調査」

評価：A（令和5年1月31日）

○「令和4年度 労働衛生検査精度管理調査」

評価：A（令和5年3月6日）

○「令和4年度 胃部エックス線検査精度管理調査」

評価：A（令和5年3月31日）

○「令和4年度 臨床検査精度管理調査」

評価：A（令和5年4月5日）

外部精度管理の一環として「P（プライバシー）マーク」の認定更新審査をクリアしました。

10月12日（一財）医療情報システム開発センターによる「トップインタビュー」をはじめとする一連の訪問調査の結果、軽微な改善指導がありましたものの、第7回目となる「Pマーク」の更新審査に合格いたしました。

これにより向こう2年間（2024, 9, 21迄）「Pマーク」の使用が継続して許諾されました。

## V 健診機器と付帯設備の拡充等

（一財）日本宝くじ協会からの補助金により胃・胸部車を整備しました。

前年度（R3, 9月）に申請した検診車の申請が採択され、令和4年度期央から製作に着手した検診車を受領し、2月20日に検収を完了しました。

半導体や車体の供給不足の影響が懸念材料ではありましたが、令和5年2月下旬から稼働に移すことができました。

本検診車はアニメーションや手話で撮影姿勢をモニターに表示する「視覚・聴覚障がい者検査システム」を搭載し、障がいのある受診者の方々に配慮した設計となっております。

補助申請先	一般財団法人 日本宝くじ協会
補助事業名	令和4年度 検診車の整備事業
補助金額	85,580千円

## VI 関係団体への役員等就任状況

東京都産業保健健康診断機関連絡協議会 理事 : 理事長 白川 毅

〃 事業部会委員 : 石渡 佐恵樹

## VII 会議の開催

### (1) 全理事会

#### ○ 5月31日

- ① 令和3年度事業報告（案）承認の件
- ② 令和3年度財務諸表等及び公益目的支出計画実施報告書（案）承認の件
- ③ 第57回定時社員総会開催の件

#### ○ 11月 8日

報告事項：令和4年度上期事業概況・損益見込

- ① 令和4年度下期事業計画（案）承認の件
- ② 令和4年度下期修正予算（案）承認の件

- 令和5年3月30日
  - ① 令和5年度事業計画（案）認定の件
  - ② 令和5年度収支予算（案）認定の件
  - ③ 短期資金調達計画に関する件
  - ④ 役員賠償責任保険加入の件

(2) 定時社員総会（第57回定時社員総会）

- 6月24日
  - ① 令和3年度事業報告
  - ② 令和3年度財務諸表等及び公益目的支出計画実施報告書承認の件
  - ③ 令和4年度事業計画について
  - ④ 令和4年度収支予算について

- (3) 常勤理事会 毎月第3金曜日
- (4) 各部報告会 毎月第3金曜日
- (5) ライン会 毎月最終月曜日
- (6) その他社内定例会議

- <品質保証委員会>
  - ・CS・ES委員会
  - ・リスクマネジメント委員会
  - ・医療技術情報委員会

<安全衛生委員会>

<機関誌編集委員会>

<個人情報保護委員会>

- ・精度管理部会
- ・自主監査部会

毎月開催

適宜開催



VIII 会員の異動状況

(R 5, 3, 31現在)

会員区分	前期末	増加	減少	当期末
法人正会員	18	0	0	18
個人正会員	21	0	0	21
法人賛助会員	11	0	0	11
個人賛助会員	0	0	0	0
合計	50	0	0	50

(別表)

### 令和4年度健康診断区分別受診者数一覧表

#### 1) [職域関係]

健診区分	受診者数(人)	備考
雇入れ時	5,117	
定期健康診断	79,353	
特殊健康診断	40,101	詳細は別記参照
生活習慣病健康診断	117,181	
その他健康診断	15,213	二次精密検査、定期追加検査含む
歯科	0	
合計	256,965	

#### 別記 (特殊健康診断内訳)

健診区分		受診人数(人)	備考
法定	じん肺	1,648	
	鉛	463	
	有機溶剤	10,573	
	特定化学物質	14,167	
	電離放射線	1,144	
	石棉	736	
行政指導	有害光線	1,954	
	騒音	5,604	
	振動工具	1,959	
	腰痛	576	
	V D T	1,277	
合計		40,101	

#### 2) [地域住民関係]

健診区分	受診者数(人)	備考
住民健康診断	0	行政・地区医師会よりの受託等

#### 3) [学童・生徒・学生関係]

健診区分	受診者数(人)	備考
学校健康診断	35,425	学童・高等学校・専門学校・専修学校・大学等

1) ~ 3) 合計 292,390人

## 事業報告書の附属明細書

一般社団法人 労働保健協会

該当事項が無いため、記載を省略いたします。